

The Intercept

9 October 2023

イスラエルはハマスの犯罪に呼応し、 ガザでの大規模な戦争犯罪を命じた

Israel Responds to Hamas Crimes by Ordering Mass War Crimes in Gaza

https://theintercept.com/2023/10/09/israel-hamas-war-crimes-palestinians/?utm_medium=email&utm_source=The%20Intercept%20Newsletter

by Alice Speri

リード

民間人に対するイスラエルの犯罪に対する長年の不処罰が、国際法を無視する文化を育んできた。

800人のイスラエル人と500人以上のパレスチナ人が殺されている。ギャラント発言は、ガザを暴力の大規模なエスカレーションの舞台とするだろう。

以下本文

ギャラント国防相の狂気

イスラエルのヨアヴ・ギャラント国防相は月曜日、占領下のガザ地区で大量虐殺的な言葉を使い、大規模な戦争犯罪を命じた。

それはハマスが週末に行ったイスラエル市民への攻撃と虐殺に対抗するためだ。

ハマスの起こした事件は多くの死者を出している。すでに少なくとも

ギャラントは、「ガザ地区の完全な包囲」を命じたと述べた。ガザ地区には230万人のパレスチナ人が住んでおり、その半数近くは子どもたちである。

「電気も、食料も、燃料もなしだ。すべてが閉鎖される」そしてこう言葉を継いだ「我々は人間の顔をしたアニマルと闘っている。だからそれにふさわしい闘い方をする」

それは戦争犯罪ではないか？

ギャラントが命じたこと、つまり民間人に対する集団的懲罰は、国際法上の戦争犯罪に相当し、人道に対する罪やジェノサイドの罪に当たる可能性もある、と一部の国際法の専門家は指摘している。

無論、ハマスによる民間人の虐殺や、「ガザでの民間人殺害への報復として処刑する」と脅したとされる少なくとも 150 人の人質誘拐も戦争犯罪である。

これらはイスラエルによるパレスチナ人に対する犯罪が長年にわたって不問に付されてきた結果である。説明責任が歴史的に無視されてきたことは、国際法を無視する文化を育み、それが今回の暴力に直接つながった、と人権擁護団体は言っている。

ヒューマン・ライツ・ウォッチのイスラエル・パレスチナ担当主席、オマール・シャキールは声明でこう述べた。

「意図的な民間人の殺害、人質取り、集団懲罰は、正当化できない凶悪犯罪である。どんな事情があろうとも正当化することはできない。人

権と説明責任が軽視される限り、この地域を何十年も苦しめてきた不法な攻撃と組織的な弾圧は続くだろう」

占領地への地上侵攻も、今後数日のうちに行われるとの見方が強い。

ハマスによるイスラエル攻撃を受け、イスラエル軍はガザへの空爆作戦を開始した。イスラエル軍の空襲により住宅が倒壊した。とりわけ、人口密度の高い難民キャンプが標的とされた。

ガザ地区の人道支援活動家も、病院は死傷者の数に完全にパンクし、救急車まで銃撃を受けていると報告している。

ガザ住民には逃げる場所もない

専門家は、イスラエルが行っている民間人への「警告」は十分ではないと指摘している。例えばネタニヤフ首相は、四方を壁で囲われているガザの住民にこう警告した。

「我々はあらゆる場所で実力をもって行動するから、今すぐ立ち去れ」世界で最も人口密度の高い地域のひとつであるガザ地区には、人々が安全を求める場所がない。イスラエルが 2007 年に空と陸と海を封鎖して

以来、ガザ地区には安全な避難場所などないのだ。

戦争犯罪の判定は国際刑事裁判所（ICC）の管轄下にある。同裁判所は2021年にパレスチナ占領地における戦争犯罪と人道に対する罪に関する調査を開始している。

この調査はイスラエルとアメリカの猛反対を招き、ほとんど停滞している。留意すべきは、どちらの国も国際刑事裁判所のメンバーではないことである。

人権擁護者たちはすぐに、「ギャラントの言葉は犯罪を犯す“意図の容認”につながる」として、ICCのカリム・カーン検察官に注意を喚起した。しかし反応はなかった。カーン検察官の担当者は取材に対し、次のように答えた。

「パレスチナにおけるICCの権限は、現在進行中であり、現在の状況下で行われている犯罪にのみ適用される」

しかし、ギャラント氏の言葉をどう捉えるかについてはコメントしなかった。

バイデン政権は、土曜日の攻撃以来、イスラエルへの支持を繰り返し表明している。ブリンケン国務長官

は、「ハマスによる攻撃の停止に焦点を合わせる」と約束した。しかしイスラエルがガザへの報復を宣言したことについては、コメントすることはなかった。

度重なる不処罰がもたらしたもの

人権擁護団体や国際法の専門家たちが以前から警告してきたように、戦争犯罪に対する免罪はさらなる犯罪を招くだけだ。

昨年、ロシアがウクライナに本格的な侵攻を開始したときは、多くの人々がシリアやその他の地域でロシアが犯した戦争犯罪の不処罰を指摘した。

そして、そのことがロシアのウクライナでの犯罪を可能にしたと主張した。

これに対しICCは、即座に調査官を派遣して対応し、今年初めにはプーチン大統領以下のロシア指導部を告発するに至った。

しかし、2018年、2021年、2022年の軍事作戦でパレスチナ市民数百人が死亡した後を含め、イスラエルによるガザでの犯罪にはまったく対応しなかった。

「これまでの衝突を通じて学んだことがあるとすれば、深刻な虐待が罰せられない限り、さらなる弾圧と市民の流血が続くということだ」と HRW のシャキールは語った。すでに HRW は ICC に対し「パレスチナが犯したすべての重大な犯罪に対する調査を加速させる」よう求めている。

根本的な不均衡が明らかだ

両者とも極悪非道な犯罪を犯した。このことは間違いない。しかしギャラント国防相がガザの完全包囲を呼びかけたいま、根本的な不均衡が明らかだ。ハマスの攻撃はイスラエル国民と世界に衝撃を与え、過去 50 年間で最も深刻なイスラエルへの攻撃となった。しかしそれは 230 万人の閉じ込められた市民を飢餓に陥れるというギャランの脅しとは、到底比べ物にならない。月曜日、メディア評論家のサナ・サード (Sana Saeed) はこう指摘した。「だからこそ、これは決して対等な "戦争" ではなかったし、今後もそうなることはないだろう。なぜなら、一方が全住民を完全に抹殺し、

その生死を支配する力を持っているからだ」

ハマスの攻撃を受けて大量虐殺の脅しのレトリックを用いたイスラエルの指導者はギャラントだけではない。

スモトリッチ財務相は「今こそ残酷になる時だ」と宣言した。カルナー議員は「ハマスの攻撃をしのぐナクバを」と呼びかけた。

クネセトのアリエル・カルナー議員は「48 年のナクバを覆すナクバ」を呼びかけた。

ナクバというのは、イスラエル建国時に 75 万人以上のパレスチナ人が虐殺され、追放されたことを指している。

狂気が狂気を呼ぶ

他のどちらかの当事者は、他方が犯した犯罪を非難した。より多くの犯罪を犯すための正当化として利用するためである。

「紛争当事者の一方が戦争法を守らないからといって、もう一方の当事者が戦争法を守ることを免責されるわけではない。それではイスラエルが道徳的に優位に立つことはできない」

イスラエル政府の閣僚たちは、ガザの住民を殺害し、破壊し、粉砕し、さらには飢餓に陥れようと呼びかけている。

イスラエルの人権団体「B'Tselem」は、声明の中で次のように述べた。

「民間人への意図的な攻撃は禁止されており、容認できない。

抑圧からの自由を求める闘いの一環としてであれ、テロとの戦いの一環としてであれ、このような犯罪を正当化することはできない」。

国際的な人権団体もまた、この週末の出来事の背後にある根本的な原因に対処するよう国連に呼びかけた。

根本的な原因に、緊急に対処しなければならない

アムネスティ・インターナショナルは声明の中で、パレスチナの武装勢力に対し、民間人を標的にしないよう呼びかけた。

「イスラエルは過去のガザ戦争で、戦争犯罪を平気で犯したという恐ろしい実績がある。このような暴力の連鎖が繰り返される根本的な原因に、緊急に対処しなければならない。そのためには国際法を守り、イスラエルによる 16 年間にわたる違法なガザ封鎖と、すべてのパレスチナ人に課せられたアパルトヘイト、

そしてイスラエルのすべての抑圧システムを停止する必要がある」

パレスチナの人権団体もこの呼びかけに賛同した。

「パレスチナ人は何十年もの間、国際社会に対し、こうした侵害に終止符を打つために、非難の声明を出すだけでなく、具体的で意味のある行動をとるよう求めてきた。

Al-Haq、Al Mezan 人権センター、パレスチナ人権センターは、月曜日に国連に宛てた公開共同書簡の中でこう書いた。

「国際社会がイスラエルの責任を追究する政治的意志を欠くことは、イスラエルがパレスチナ人全体に対する犯罪を犯し続けることを助長するだけである」